

# JHFREPORT



「2023パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI」より（10-11ページに報告を掲載）

## 2024年も安全に楽しく／委員会へのご参加を

2024年1月1日は、能登半島地震によって強く記憶されるものとなりました。大災害の惨状をニュース等で目にし、大空を飛ぶことのできる有り難さをあらためて感じたフライヤーは少なくないと思います。また、翌日には空港滑走路上で航空機の衝突炎上事故が起き、多くの方が「安全」について考え、我が身を振り返ったのではないのでしょうか。亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、ハンググライディング・パラグライディングの世界にも「日常」が戻ってきました。感染症が無くなったわけではありませんので、少し変化した「日常」ですが、各地で大会が開催され、人と人の交流が復活。この上昇気流が少しずつでも強くなっていくことを願います。

2024年も「安全」を常に忘れず、事故のないようフライトを楽しんでください。何度も繰り返しますが、私たち

の「自由な飛行」は、社会の理解と協力なしには成立しません。これまで積み重ねてきた信頼関係を損なうことのないよう、ひとりひとりが心掛けていきたいものです。

JHF活動の原動力となる常設委員会委員の任期がこの3月31日に満了となるため、次期委員を募集します。連盟活動を通じてフライト環境をよくしていきたい、仲間のために何かしたいという方をお待ちしています。

### スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

### JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

# 2024年を迎えて 安全と普及、フライトを継続できる環境作りを。

公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟 会長 安田 英二郎



あけましておめでとうございます。

2023年は新型コロナウイルス感染症の流行による自粛ムードから完全に回復し、各地のエリアも大会も賑わった年でした。しかし、ベテランの重大事故が複数発生し、NP証以下の講習生による空中衝突事故が目立つなど、安全面では問題が残りました。2024年は安全対策を図りつつ普及に取り組んでいきます。

ハンググライダーとパラグライダーは大学のサークル活動（クラブ活動）として一定の人気があります。しかし、大学を卒業するとサークル（クラブ）を卒業し、グライダーも卒業してしまう学生が多いことがとても残念で

した。そこで、大学で飛んでいた学生が卒業後も飛び続けることのできる環境を整えていく必要があります。そのためには、大学を卒業したときにはまだB証やNP証の方が多いので、講習の安全を図ることも重要ですし、25歳以下を対象にした大会や行事を企画して、学生や卒業生と一緒に参加して交流を深めることも考えられます。学生連盟と意見交換をしつつJHFとして取り組んでいきます。

ドローン（無人航空機）は今後、レベル3の補助者を配置しない目視外飛行による物資運送などの実用化が進んでいくでしょう。ドローンとわれわれのような有人飛行を行う者との調整は、ドローン利用者がDIPS2.0（ドローンの各種手続きをオンラインで行うド

ローン情報基盤システム2.0）などを利用して飛行許可の申請をし、その申請がされると各有人機の団体（JHF、JPMA、日本気球連盟、日本滑空協会など）にドローンの飛行計画が通知され、その団体からさらにフライヤーに周知するようになっていきます。しかし、今後はDIPS2.0を通して飛行計画の周知を一本化することが計画されています。フライヤーもDIPS2.0に興味を持っておいた方がいいかもしれません。

また、JHFの側からもハンググライダーやパラグライダーのフライトエリアや予定されている大会等の情報を外部に発信してドローン利用者に理解していただき、お互いの調整に役立つようにすることも必要です。この点について皆様のご協力をお願いいたします。

## あなたの力を貸してください

### JHF常設委員会の次期委員を募集します

JHFには常設の委員会があります。各委員会の委員は、ハンググライディング・パラグライディングの普及と発展のために、安全に楽しくフライトできる環境を守るために活動しています。

現在活躍中の常設委員会委員が今年3月31日に任期満了を迎えるため、2024年度・2025年度の2年間で任期とする委員を募集します。

安全に楽しく飛び続けたい、大切な空の仲間のために役立ちたいとお考えのあなた、委員会の一員としてJHFの活動に力を貸してくださいませんか。

以下、各委員長からのメッセージです。委員経験者の方はもちろん、連盟活動は未経験という方も、ぜひ立候補をしてくださるようお願いいたします。

#### ハンググライディング競技委員会

当委員会はハンググライディングスポーツの発展に寄与することを目的とし、主に国内大会の公認・管理・支援を行っています。

また、毎年改定される国際ルールであるスポーティングコード（Section7）に合わせながら、国内競技ルールの改定を行っています。

ハングシリーズの参加者が100人を切った2008年以降、シリーズ参加者は80人ほど。シリーズ大会もピーク時の年7～8大会が現在は4大会ほどに減っています。

2022年に競技者育成プログラム（通称フレッジ）を立ち上げ、大会やセミナーを企画・運営して競技レベルの底上げを進めています。

競技を通じて、自身のフライトスキルをレベルアップさせることや、仲間を増やしたいなどの情熱のある方の立候補をお待ちしています。

委員長 牟田園 明

#### パラグライディング競技委員会

当委員会は、日本におけるパラグライディング競技全般（ジャパンリーグ、J2リーグ、XCリーグ、アキュラ

シーリーグ等）および記録を運営管理しながらパラグライディングスポーツの進化・発展に貢献しています。

具体的には、大会の公認、大会における集計、年間ランキングの集計、世界選手権ならびに大陸選手権へのチーム選抜、上部機関である国際航空連盟



「パラグライディング日本選手権2023 in 紀の川」より



(FAI)における競技・記録に関するルール改定に合わせて国内事情を考慮しながら国内ルールの改定作業を行っています。パラグライディング競技のさらなる進化・発展に力を貸していただけの方をお待ちしています。

委員長 岡 芳樹

### 教員・スクール事業委員会

当委員会は、空を飛ぶという、最高に楽しいと同時にリスクも伴うスポーツを安全に普及していくための基盤として、スクーリングと検定に関する決めごとを作り、実行しています。

近年は、上級タンデム技能証の創設と検定会の開催、パラグライディング教本・ハンググライディング教本の改訂版発行、教員更新制度の見直し、といった事業を実施してきました。

今後は、教員を目指す方の研修機会を作ることや、上級タンデム受検者のための練習会の開催を検討しています。

現状の教習と検定に関する制度には改善の余地が大いにあります。「こうした方がいいのに」という意見がある方は、当委員会で実力を発揮し、その実現を目指してください。

委員長 北野 正浩

### 安全性委員会

ハンググライディング、パラグライディングを安全に、安心して楽しめるよう、またそうしてこのスポーツの振興に資するよう、使用機材の技術的な審査、情報収集・分析を行い、また、事故の調査、情報収集、分析を行い、そのほか、安全性にかかわる事案の分析・情報発信を行っています。

これらの作業を行うための経験、知識、能力のある方を安全性委員として募集します。

委員長 伊尾木 浩二

### 補助動力委員会

補助動力飛行とは、滑翔だけでなく航空機としての特性を強く併せ持つことからフライトの自由度が高い一方で、補助動力特有の安全知識の普及には地域格差、個人差があるのが現状です。それを補うために、当委員会はフライトモラル、グライダーだけでなくエンジンユニットを含む機材の取り扱い注意点に関する注意喚起、安全セミナー、動画制作などによる情報発信に

尽力しています。

情報発信に加えて、ここ数年で登録機体数が増えている無人航空機との空域の住み分けを視野に入れた対応の協議をしてきました。

健全な普及はフライト環境の整備を必要とし、それを委員として担ってゆく活力旺盛で経験値に基づいた知識ある人材の参加を求めています。

委員長 賀家 慎司

### 制度委員会

当委員会は、公益法人であるJHFの諸規定や制度が法律や定款および事業目的に抵触しないよう、ならびに諸規定や制度相互の整合性を確認するため活動しています。

[活動の概況]

- ・理事会の諮問に応じて各種規程、規約の新設・改正案を作成する。

- ・全ての委員会と連携をとり、新たな制度案や規程案、また規程の見直しを理事会に提言する。

[制度委員会に求める方]

- ・ハンググライダーやパラグライダーを愛する方。

- ・一般企業・公企業に勤務経験がある、公務員経験がある、或いは自営業を営む方で一般的な社会常識をお持ちの方。

- ・文書の読み込みができ、文書作成ができる方。

- ・パソコンメールや、Zoom等のオンライン会議のできる方。

対象を老若男女幅広く求めています。是非ご応募ください。

委員長 中瀬 誠

### ハングパラ振興委員会

当委員会の目的は「今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り」です。このスポーツの社会への認知度を高め、飛ぶ仲間を増やし連携を広げ、多くの方が安全に永く飛び続けることができる環境作りを進めます。

この目的に関心をお持ちの方を広く募ります。

- ・永く続けるための安全確保に関する議論、関連委員会との連携

- ・このスポーツを一般に広く知ってもらう社会的に認知してもらう活動

- ・外部サイトを活用した一般向け情報発信：スポーツナビ (Yahoo! JAPAN)、PR TIMES等

- ・体験会等イベントへの協力

- ・フライヤー会員への情報提供：JHFレポートやweb等の活用

- ・「フライヤーズボイス」定期更新体制の支援

- ・JHFレポート編集への協力

- ・パンフレット「ご家族の皆様へ」(仮称)の継続的な更新

- ・外部組織との連携窓口としての機能

- VR体験 (リスクの少ない体験) に関する大学研究室との協力体制維持

- ・上記のほか、委員会の目的のための試み

委員長 井上 潔

### 役員選任実行委員会

当委員会は、2年に一度の役員改選が行われる通常総会の、役員選任議案で実施される議決権行使の正会員投票を円滑に進めるための事務管理を担っています。

併せて、今後のJHFのより健全な経営に寄与いただけるよう理事・監事を務めてくださる方への立候補支援活動も行っています。

次の役員改選は2025年の通常総会です。広く人脈を持ち公正な判断ができる方を求めます。

委員長 鈴木 由路

### 応募方法と締切日

□応募方法：応募用紙に必要事項を記入して、JHF事務局にメール (ファイル添付)、ファクス、郵便などでお送りください。応募用紙は、JHFウェブサイトのTOPICS、『JHF委員会委員を募集します [1月22日]』からダウンロードしてください (ワードファイル)。ダウンロードができない方、ワード使用不可の方は、お手数ですが、事務局にご請求ください。

□応募締切日：2024年3月11日

□選任：理事会で選任を決定

□任期：2024年4月1日～2026年3月31日

□定員：教員・スクール事業委員会と安全性委員会が6名、他は5名

□その他：委員会活動には交通費 (実費) と日当 (5,000円) 等を支給

不明点はお気軽にJHF事務局にお問い合わせください。

TEL.03-5834-2889

E-mail:info@jhfh.hangpara.or.jp

## JHFフライヤー会員会費が 1年会費のみに

JHF会員会費規約が2023年6月13日  
定時総会で正会員全員一致の賛成を得  
て改正されました。これによって、3  
年会費を廃止し、2024年1月1日より  
1年会費のみにになりました。

1年会員と3年会員が混在する状態  
から1年会員に統一することにより、  
登録忘れを防止し、また、事務局業務  
の効率アップを図ります。フライヤー  
会員の皆さまのご理解とご協力をお願い  
します。

なお、1月1日からは、以前お送り  
していた旧払込票にて3年会費をお振  
り込みいただいた場合は返金となりま  
すのでご了承ください。

返金による登録切れ期間が発生した  
ときは、第三者賠償責任保険も切れて  
しまいますのでご注意くださいようお  
願いします。

## FAIスポーティングライセンス 日本航空協会に申請を

世界選手権などFAI(国際航空連盟)  
カテゴリー1の大会や、日本選手権な  
ど国内でも開催されるカテゴリー2の  
大会に出場する際は、FAIスポーティ  
ングライセンスが必要です。

FAIスポーティングライセンスの発  
行は、FAIの日本代表機関(National  
Air Sport Control)である日本航空協  
会が管轄しており、申請受付、審査、  
発行を行っています。

スポーティングライセンスが必要な  
方は、日本航空協会のホームページより  
申請用紙をダウンロードして、直接  
申請を行ってください。

また、遅くとも、必要となる2週間  
前までに申請を済ませるようにしてく  
ださい。

[https://www.aero.or.jp/sports/  
request/](https://www.aero.or.jp/sports/request/)

\*FAIスポーティングライセンス：航  
空スポーツにおいて日本国を代表する  
機関である日本航空協会が、ライセン  
ス所持者の身分(国際航空スポーツ大  
会で日本国を代表できる国籍条項に合  
致している)と、資格(ライセンス表  
記種目について、FAIスポーツ規定を  
熟知し、遵守できる)を世界各国に証  
明するもの。

## 【フライヤー会員の皆様にお願ひ】 メールアドレス等をお知らせください

JHFでは会員管理等のシステムの  
改修を予定しています。

フライヤー会員の皆様のメールア  
ドレスなどの情報を一元管理するこ  
とによって、なるべく電子メールを  
利用して郵送件数を減らすなど、事  
務局業務の効率化、そして経費削減  
を図りたいと考えています。

つきましては、システム改修の準  
備として、2024年3月31日(日)ま  
でに右のQRコードから、右記情報  
をご入力くださるようお願いします。  
これらの情報を既にご連絡いただい  
ている方も、お手数をおかけしま

が、確認のためにご入力ください。  
皆様のご理解とご協力をお願いし  
ます。

[入力項目]

- ・フライヤー番号
- ・氏名
- ・生年月日
- ・メールアドレス1
- ・メールアドレス2(オプション)
- ・メールアドレス3(オプション)
- ・携帯電話番号



## 福岡聖子さんを迎えて 安全セミナーを開催

競技や記録挑戦など世界の空で活躍  
する福岡聖子さんを講師に迎え、1月  
14日(日)、富士山YMCAグローバル・  
エコ・ビレッジにて安全セミナーを開  
催しました。

安全セミナーの目的は、より多くの  
の方々に参加していただき事故を防ぐた  
めに必要な技能と知識を伝えること。  
「安全とパフォーマンス最適化のため  
の自己分析」というテーマの今回の講  
義、その内容は次号でお知らせする予  
定です。

## 上級タンデム技能証検定会 2月は静岡県朝霧高原で

今年度の上級タンデム技能証検定会  
を各地で実施しています。

2024年は1月13日(土)・14日(日)  
に続き2月13日(火)・14日(水)に  
静岡県スカイ朝霧で開催の予定です。  
参加申し込みについてはJHFウェブサ  
イトでご案内していますのでご覧くだ  
さい。

上級タンデム技能証は、タンデムフ  
ライトの安全性と確実性を向上させる  
ことを目的として2019年に新設したも  
のです。

その検定会は2日間の日程で実施し  
ており、学科講習と学科試験、実技検  
定を行っています。実技検定は、ソロ  
フライト検定で合格した受検者だけが

タンデムフライト検定に進みます。

検定員は3名以上を配置することで  
合格基準を一定に保っています。また、  
検定員のうち少なくとも1名は「同一  
の企業グループやスクールに属さない  
者」とすることで、公平性を担保して  
います。

受検者は事前に健康診断書と使用機  
材一覧を提出し、基準を満たさない場  
合は受検できませんので、ご注意ください。

また、受検希望者が10名以上集まれ  
ば開催を検討します。受検をご希望の  
方はJHF事務局にお知らせください。

## 安全フライトのために要チェック セーフティーノーツ

あなたはJHFウェブサイトで各委員  
会のページをご覧になったことがあり  
ますか。

安全性委員会のページでは、ドイツ  
ハンググライディング連盟(DHV)  
や機材のメーカーなどが発表する耐空  
性改善に関する通報：セーフティー  
ノーツを掲載しています。

ご自分がお使いのグライダーやヘル  
メット・ハーネス・緊急用パラシュ  
ートなど装備品の安全について重要な  
情報があるかもしれません。安全なフ  
ライトを長く楽しむために、定期的に  
チェックすることをお勧めします。



# Flyer's Voice

Kanako HONMA

JHFウェブサイトには会員向けページだけでなく、これから空を飛びたい人のためのページがあります。そこで一際目を惹くのが、フライヤーの生の声を紹介する“Flyer's Voice”です。現在掲載しているのは、ほんまかなさんの「声」。インドア派でブロガーのほんまさんがパラグライディングを始めたきっかけは、友人に誘われて山登りの楽しさを知り……「仕事ではずっとPCに張り付いてデスクワークなので、休日に外に出るのは

気分転換になってよかったんです。そんなハイキング中にパラグライダーを見かけたのが始めたきっかけです。フライヤーの方に『山は歩いて降りるより飛んで降りるほうが楽しいよ』と言われて興味を抱き、一日体験に申し込



ほんまかなさん。ホームエリアは茨城県ソラトぴあ。

みました。」

続けられるかどうか不安に感じながらも仲間と楽しみながら練習を重ね、パイロット証を取得したほんまさん。パラグライディングの一番の魅力は「普段とは違う視点から世界を見られること。」だと言います。昨シーズンにはクロカンデビューもしたほんまさんの「声」、ぜひ全文をお読みください。

JHFウェブサイトのトップページから、または下のQRコードからどうぞ。バックナンバーもご覧になれます。



## 学連ニュース

あけましておめでとうございます。今回は秋に行われた新人戦について報告します。今年度はハング、パラそれぞれで大会を行うことが出来ました。

### ハング新人戦

荒神山でのハング新人戦については4年ぶりの大会でしたが、運営陣スタッフ、そしてインストラクターの方々のご協力もあり、無事開催することが出来ました。本当にありがとうございました。

今年度は、従来のLDのターゲット部門に加えて、「ばくだん落とし」部門といった新しい競技内容で競うこととなりました。丸めた軍手を空中で落とし、いかにターゲットに近づけるかというものです。思った以上に難しく、白熱した戦いになりました。自分の機体の速度やその時の風の強さなどを考えながら競技を行うことで、新しい知識も得られたように思います。新人戦ならではの楽しい種目となったの

ではないでしょうか。

また大会参加者の交流会も行われ、全国の学生フライヤーと親睦を深めることが出来ました。同じようなレベルの人との交流は、自身のモチベーションの向上にもつながりました。雄大な琵琶湖を目の前にして2日間とも選手全員が無事フライトすることが出来、とても有意義な大会になりました。また来年も開催とご参加、よろしくお願いいたします。

### パラ新人戦

パラの新人戦は毎年恒例の十分一で開催しました。初日は前日の雪の影響もあり、大会はキャンセルとなっていましたでしたが、フライト講習会を開催し様々な知識を得ることが出来ました。2日目は天候も良好で競技は無事行うことが出来ました。

初めての他エリアで緊張している選手も見られましたが、良い緊張感の下、楽しくフライトすることが出来ました。

いつもと違う場所でフライトするには新人戦は良い機会であると思います。

大会を開催してくれるスタッフ、サポートしていただくインストラクター方に感謝するとともに、めったにない貴重な経験をしていることをあらためて実感しました。新人戦を機に他エリアの学生とも仲良くなり、いつか飛びに行ってみたいといった前向きな声も聞こえました。

学生連盟としてたくさん大会を開催し、学生フライヤーを盛り上げていきたいところですが、参加人数が減少傾向にあるのが現状でもあります。大会に参加した方は楽しさを自分のエリアに持ち帰ってどんどん広めていって欲しいと思います。意欲的な学生には連盟からも支援をしていくつもりなので、たくさんのご参加をお待ちしております。3月にはまた大会の開催を予定しています。今年一年もよろしくお願いいたします。



滋賀県荒神山でのハング新人戦参加者。



山形県十分一山でのパラ新人戦参加者。

# 航空法をしっかりと理解してXCを楽しむ。

JHF安全性委員会 委員長 伊尾木 浩二

## 【航空法の知識を再確認しましょう】

これから春のXC（クロスカントリー）シーズンです。XCフライトをされる方は、航空法をしっかりと理解して飛ぶようにしてください。

この1年以内に2件、XCで管制圏内に進入された方がいます。パラグライダー、ハンググライダー、補助動力付きのフライトは、航空法及び小型無人機等飛行禁止法の規制の対象となります。また機材においては特定航空用機器として扱われ、違法なフライトを行うと処罰されますので、十分な計画を行いチームでフライトされることが望ましいです。

## 【もしもフライト中に

### 旅客機と遭遇することになったら】

XC飛行中に、旅客機とのニアミスをもしも起こした場合には、多くの乗客を乗せた航空機に対して危険を与えたことになり重大な問題に発展します。

一般的に空港は管制圏または情報圏として半径5nm（約9.2km nm：海里 1nm=1.852km）のシリンダーで管理されています。航空機側は地上管制官と無線で情報を交信し、小型機を含む他機がいないか常に情報を察知し安全な飛行を行っています。

旅客機とパラ、ハングなどが遭遇することは、全国的にあらゆるところで発生する可能性が十分にあります。それは空港のみならず、管制タワーの無い飛行場、自衛隊駐屯地なども含まれます。

旅客機の場合には空港へ着陸する場合、一般的に3度のアプローチ角度で進入してきます。それを考慮すると、管制圏、情報圏の半径約9kmを超えた地点でも同高度になり得る状況となります。

旅客機の着陸アプローチを考慮した場合、10000feet（高度約3300m）を切る時には空港から約40nm（約70km）

になります。30kmくらいでは、高度1500mほどで飛んでいる可能性があります。

旅客機、自衛隊や米軍等の大型航空機は飛行速度も速く（約400～500km/h）、パラ、ハングを発見したとしても回避するには困難な状況になります。

また、小型飛行機、ヘリコプターなどはVFR（有視界飛行）でフライトしていることがほとんどだと思いますが、VFRの場合には他機警戒を目視で行いながら飛行します。また飛行速度も大型機と比べて遅くなり、パラ、ハングを発見した場合には避けて飛行する義務があります。

それでも、XC飛行中にヘリコプターを発見した場合には、近寄ることがないように注意して飛行を継続するか、危険性を感じた場合には速やかに安全な場所に着陸を行う判断が必要になります。

## 法律を遵守してフライトすることを常に意識しましょう

### 航空法第239条の2：飛行に影響を及ぼすおそれのある行為

#### 第二百三十九条の二

第一項（飛行に影響を及ぼすおそれのある行為）

法第百三十四条の三第一項の航空機の飛行に影響を及ぼすおそれのある行為で国土交通省令で定めるものは、次の各号に掲げる行為とする。

一 ロケット、花火、ロッキーンその他の物件を法第百三十四条の三第一項の空域（当該空域が管制圏又は情報圏である場合にあっては、次に掲げる空域に限る。）に打ち上げること（搜索、救助、その他の緊急性がある場合におけるものを除く。）。

イ 進入表面、転移表面若しくは水平表面又は法第五十六条第一項の規定により国土交通大臣が指定した延長進入表面、円錐表面若しくは外側水平表面の上空の空域

ロ 法第三十八条第一項の規定が適用されない飛行場の周辺の空域であつ

て、航空機の離陸及び着陸の安全を確保するために必要なものとして国土交通大臣が告示で定める空域

ハ 緊急用務空域

ニ イからハまでに掲げる空域以外の空域であつて、地表または水面から百五十メートル以上の高さの空域

二 気球（玩具用のもの及びこれに類する構造のものを除く。）を前号の空域に放し、又は浮揚させること。

三 風を第一号の空域に揚げること。

四 模型航空機（無人航空機を除く。次条において同じ。）を第一号の空域で飛行させること。

五 可視光線であるレーザー光を第一号の空域を飛行する航空機に向かって照射すること。

六 航空機の集団飛行を第一号の空域で行うこと。

七 ハンググライダー又はパラグライダーの飛行を第一号の空域で行うこと。

第二項

法第百三十四条の三第一項ただし書の

許可を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書を国土交通大臣に提出しなければならない。

一 氏名、住所及び連絡場所

二 当該行為を行う目的

三 当該行為の内容並びに当該行為を行う日時及び場所

四 その他参考となる事項

### 小型無人機等飛行禁止法（重要施設の周辺地域の上空における小型無人機等の飛行の禁止に関する法律）

規制の対象となる小型無人機等の飛行

1. 小型無人機を飛行させること

・無人飛行機（ラジコン飛行機等）

・無人滑空機、無人回転翼航空機（ドローン等）

・無人飛行船 等

2. 特定航空用機器を用いて人が飛行すること

・気球

・ハンググライダー

・パラグライダー 等



## 【たとえば、筑波から

### 福島方面へXCを行う場合には】

筑波方面から50km程度を北上し、サーマルと風の状況を見据えつつ西進、または北西方面に進路を変更し白河市地域上空を飛行する場合には、必ず福島空港への進入ルートを横切ることになります。旅客機の場合には定期便となり、飛行ルートも確立しています。その為、計算もしやすくなります。離陸の場合も同様に上昇率の違いはありますが考慮しておく必要はありません。

普段、旅客機等の運航を考慮していない場合には、今後は調査し計画を立ててリスクを減らしたフライトを行うようにしましょう。

## 【XCをチームで行くと、いろいろな

### 意味でリスクを下げられます】

XCの理想的なチームは、飛行グループと地上班を作ること。予め気象条件、飛行ルートを想定し打ち合わせを行います。

地上班はフライトせずにサポート側として専念します。そして、地上の風の情報を連絡したりパイロットが知りたい情報を伝えたり、航空機情報が必要な場合にはそれを伝えてXCフライトをしやすくするサポートです。そして、地上班がどこまでパイロットについていけるかは状況次第ですが、予め短距離で着陸したパイロットを回収し安全確認をすることができます。

また、上空ではお互いの位置を確認しあい、サーマルの状況を伝えあうことも、距離を延ばす為には有効手段となります。事前の打ち合わせを行い、チーム体制で活動すると、違った面白さも出てくるでしょう。

## 「もったいない事故」を繰り返さないために

もし、あなたが事故を起こしてしまったら、あやうく大事故になるようなミスをしてしまったら、どうしますか？

自分の失敗を皆に伝えるのは、嬉しいことではありません。ベテランパイロットであれば尚更、気が進まないことでしょう。しかし、あなたの経験が皆の安全につながるとしたら、どうですか？

JHF安全性委員会では、事故再発防止のために、事故やインシデント情報を収集しています。当事者、エリア・スクールの管理者など関係者の方は、事故報告をしてください。目撃しただけだから報告までは……という方は、JHFウェブサイト、会員ページトップの画面左上、『事故情報収集ページ』からお知らせください。匿名で結構です、ぜひご協力を！

## ●2023年の事故報告について

2023年12月15日現在、事故報告件数は45件、死亡事故は7件（パラ5件、ハング1件、MPGが1件）と多くの方が亡くなっています。残念なことに昨年より重大事故が増加しています。また、重傷事故で未だに手足がほぼ動かない方も複数名います。接触事故も6件ありました。

自分の技量に合った機材で、自分の技量に合ったフライト計画、自分の技量に合った気象条件でフライトすることを再確認しましょう。趣味のスポーツ、決して無理して飛ぶ必要はなく、無理して誰かに続いて飛ぶ必要もありません。安全管理は自分自身で行うものです。

そして、ベテランフライヤー及びスクール生の事故も多発しています。長年経験しているベテランと呼ばれる方でも、たまたま集中力に欠けていたせいなのか衝突事故なども発生しています。衝突事故は最も危険です。自分に優先権がある／無いにかかわらず、相手が近づいてきたらよく観察し、安全マージンをしっかりと確保してフライトしてください。海外で飛ばれる場合

も同様です。優先権を主張していても事故になったら最悪です。

また前進して上昇し後方から衝突する事故も過去に発生しています。明らかに前方周辺をしっかりと確認していないことになります。危ない飛び方をしているパイロットを見つけた場合は、着陸後、安全な飛び方を教えてあげるにより安全性が上がっていきます。周囲の確認をしっかりと行い、スクール生も含めて安易に他機に近づかないよう細心の注意をしてください。

スクール生自身が自己判断による飛行計画に不安を感じるなら、必ずインストラクターに全てを見ていただくように申し出てください。きっと離陸から着陸まで安心して飛ぶことができると思います。

また、ツリーランは立派な事故です。木が無ければ死亡事故につながる恐れもあります。ツリーランでも事故報告は必須ですので、フライヤーの皆様から目撃情報があればお知らせください。離陸直後のスタチンも同様です。事故報告に基づき、注意喚起等の対策強化を図り、事故の無いスカイスポーツにしていきたいと考えています。

## 2023年後半の事故報告

	日付	機材	内容	EN	年齢	経験	性別	練習生	怪我の状況
38	9月13日	PG	飛行中に翼全体的に潰されそのまま落下しツリーラン	B	74	28	男		無傷
39	9月17日	HG	飯山市、離陸後右翼が立ち木に衝突しツリーラン		70	35	男		顔面擦り傷
40	9月17日	PG	風に煽られてバランスを崩して着地		52		男		左足骨折
41	9月29日	MPG	不慣れな場所に着陸				男		両足首脱臼骨折
42	9月30日	PG	川に墜落し骨盤骨折。4日後に死亡		65		男		死亡
43	10月3日	PG	L/D進入時にブレーク引きすぎからの旋回で失速、着地	B	61	12	男		軽度腰椎圧迫
44	10月15日	PG	アウトランディング時に木に腕がぶつかり右上腕部骨折	B	41	10本	男	未	右上腕骨折
45	10月29日	PG	五葉松に衝突し骨折。詳細、調査中		41				骨折
46	11月2日	PG	L/D後、風に煽られ斜面を滑り落ち側溝に頭から突っ込む	B	82	20	男		頸椎骨折重症

# ヤン・チェン、驚異的スコアで世界選手権獲得！

2023年10月20日-28日 ブルガリア Sopot 報告：チームリーダー&選手 岡 芳樹

31か国、129人（うち女子27人、ジュニア18人）が参加してアキュラシー世界選手権が開催された。日本チームは岡芳樹、古田岳史、平野竜二、橋本みさ紀の4人。8日間のうち6日間で12ラウンドをこなしたため最後の2日間は競技が行われなかった。

## ランディングの広さは十分だがわずかな傾斜とサーマルに苦戦

大会会場のSopotはブルガリアの首都ソフィアの東約110kmに位置する。町の北側の山脈にある中央バルカン国立公園にとつづくように設置されたチェアリフトの山頂駅から少し上ったところがテイクオフ（標高1450m）。草地の斜面で150機はセットアップ可能な広さ。正面の風向は南。ランディングはリフト乗り場のすぐ近くのわずかに傾斜のある草地（標高570m）。広さは十分大きい、わずかな傾斜が曲者。この場所は、10年前にXC（クロスカントリー）のパラグライディング世界選手権が開催されたエリア。XC世界選手権は7月に開催され、今回は10月と季節は異なるが、晴ればサーマルコンディションになることは間違いなく、高度なコントロールが要求され、波乱の展開も予想されるところであった。

日本チームは2便に分かれて現地入り。宿はメインスタッフ兼選手の友人のついでで、本部（リフト乗り場に隣接する建物）から700m、町の中心から

も700mほどにある民泊。宿のオーナーは老夫婦で全く英語が通じないが、何とかグーグル翻訳で意思の疎通をはかることができた。

日本チームは全員、大会開始の前日、レジストレーションの合間になんとか練習フライトを数本行った。予想通りサーマルコンディションになったことと、ランディングがわずかに傾斜していることにより、難しさを実感する事が出来た。

## 最後まで競技できるか……

### ノックアウトシステム

大会初日のブリーフィングで、今回から採用されるノックアウトシステムについて詳しい説明がなされた。

このシステムは、2023年3月のCIVL総会で承認された新しいアキュラシー競技システムで、目指すところは、出来るだけ多くの国からの参加選手を受け入れながら、最大となる12ラウンドを成立させ、かつメディアフレンドリーとなる競技方式。

そのシステムを要約すると、6ラウンドが成立するまでは参加選手全員がフライトをする。6ラウンドが成立した時点で、国別競技は終了し、その後は個人競技として進行する。6ラウンド終了時点でトップ60人の選手が残り、競技を続行する。

そして7、8ラウンドが成立した時点でトップ40人が残り、競技を続行する。そして9、10ラウンドが成立した



開会セレモニーに臨む日本チーム。

時点でトップ20人が残り競技を続行する。

したがって6ラウンド終了した時点でトップ60人に残れないと、その先競技は出来ずに、上位選手の飛びを見て学習することになるか、早々と帰国することになる。

賛否両論があると思うが、何らかの修正はあってもトレンドは変わりそうにないと感じた。

## インドネシアが国別トップ 前回三冠の韓国は3位に

さて競技であるが、大会5日目だけは朝からテイクオフが強風で午後3時半までウェイトイングを続けたが好転せずキャンセルとなったのを除き、ほぼ毎日同様なコンディション。朝のうちはサーマルが無く安定しているが、10時半過ぎからサーマルが出始め、時間と共にバンバン状態になり、午後4時過ぎにサーマルが弱まるパターン。

大会4日目の午前中に問題の6ラウンドが終了する。この時点で、何とかトップ60人に残ったが、世界ランクの上位選手である、スロベニアのゴラン、ドラゴン、地元のヴァレリ、スロベニアのスルーガと言ったところが200点をたたいている。やはり、ランディングの地形とサーマルがトップ選手といえども失敗につながることを示している。

そしてここで終了する国別ランキング（チーム選手4人の上位3人の合計



標高1450m、150機はセットアップ可能な広々としたテイクオフ場。





標高570mの広大なランディング場。パッドの中心（ゼロスコア）を狙ってしのぎを削る。



古田選手、みごとゼロスコア。

点で競う)では、第5ラウンドに4人中3人が200点をたたいて圏外に後退した中国をしり目に、インドネシアがトップとなった。

### 世界ランク上位者も脱落するなか チェンが驚異的スコアで勝利

引き続き大会4日目にノックアウト後の7、8ラウンドが成立する。これらのラウンドでも200点をたたき選手が10人も出て脱落。その中に、セルビアのゴランも含まれている。

そして迎えた5日目は、晴れてはいるがテイクオフの風が一日中強くキャンセルとなる。

翌大会6日目はコンディションも良く、9、10、11そして12ラウンドが成立。会期2日を残して選手権が終了することに。最終の11、12ラウンドに進めなかったのが、スロベニアのスルーガ、10ラウンドで200点をたたいた、韓国のジフン、そして女子トップのリカであった。

最終となる11、12ラウンドもサーマルコンディション。グライダーコントロールとタイミングが左右する中、上位陣の中では12ラウンドに200点をたたいたドイツのシューベルト以外は順当にパッドを踏み、終始トップをキープしていた中国のヤン・チェンが11ラ

ウンド(成立したラウンドが5ラウンドを超えると最悪の1ラウンドを消す事が出来る)の合計が14点と言う驚異的なスコアで優勝した。

トップ20のスコアを見ると、大きいスコアは1本程度で残りはほぼパッド、しかも一桁と言ったところ。

12本飛んだらサーマルの無い条件はせいぜい2、3本であることを考えると、いかにグライダーコントロールが優れているかがわかる。どのようにしてそこまで到達できるかはわからないが、良い勉強になった。

最後に、あらためて、世界のレベル、並びに選手層の厚さを思い知らされました。

また、不甲斐ない結果でしたが、サポートしていただいたJHFおよび応援をして頂いた皆様に感謝し、さらに精進して良い結果を今後の大会で残せるように努力したいと思います。

#### [総合]

- 1位 ヤン・チェン 中華人民共和国
- 2位 リナス・シューベルト ドイツ
- 3位 アリス・アフランシア インドネシア

- 72位 岡 芳樹
- 74位 橋本みさ紀
- 107位 古田 岳史
- 115位 平野 竜二

#### [女子]

- 1位 ユンヨン・チョー 大韓民国
- 2位 カトリーヌ・デヴォス フランス
- 3位 ドンワ・ヤン 大韓民国
- 9位 橋本みさ紀



総合トップ3。



女子トップ3。前回3位のチョーが勝利。



女子6~10位。右から2人目が9位橋本選手。



ジュニアトップ3。勝者シューベルトは総合でも2位に。



国別トップ3。ラウンド6までで順位決定。

#### [ジュニア]

- 1位 リナス・シューベルト ドイツ
- 2位 ラファエル・カルヴァロ チリ
- 3位 レナード・シューベルト ドイツ

#### [国別]

- 1位 インドネシア
- 2位 チェコ
- 3位 大韓民国
- 21位 日本

## 岡芳樹・伊藤まり子、日本選手権者の座に復活。

2023年12月2日-3日 静岡県富士宮市朝霧高原エリア 報告：PG競技委員 鈴木 洋史

「2023パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI」が12月2日、3日の2日間で行われた。国内選手33名に韓国から4名、モンゴルから3名を加えた40名がオープンクラスで争うことになった。

## Day 1

天気、風ともに良好の予報で、競技を開始。予想されていたがこの日はサーマルコンディションとなりクロカンに出た人たちのなかには2800mまで上がった人もいたようだ。

一方のアキュラシー選手は、この状況に案の定、大苦戦となる。昨年同様序盤から上位選手がミスをし、早くも優勝争いの望みが無くなる選手もチラホラ。その中で、この日の5ラウンドすべてをパッドスコアでまとめた古田選手が初日をトップで終え、女子は菊田選手が首位で折り返す展開。しかしながら今回はマックス12ラウンドの日本選手権なので最後まで目が離せない。

## Day 2

Day 1ほどではないがこの日もサーマルが予想される。前日5ラウンドを終えたため、これから一つのミスが命取りとなる。やはり、各選手ミスが出て目まぐるしく順位が入れ替わる日となった。

3ラウンドが行われ、この日の最少スコアは総合5位の和田選手の「5」、次は4位ハン・ジェファン選手（韓国）の「21」、両選手とも前日に3桁スコアを2つ出している中、最後まで諦めずに自分の力を出し切って上位に再浮上。和田選手は今大会でゼロステッカーを2枚獲得した。

優勝争いは、前日トップの古田選手を岡選手、韓国のキム・キヒョン選手が追う展開。最終的にはこの日のスコアを2桁前半で収めた両選手が古田選手を逆転し、優勝は岡選手、準優勝はキム選手、3位が古田選手となった。

女子は、こちらも2日間を通してスコアの安定していた伊藤選手が2日目になって急浮上し優勝。準優勝橋本選手、3位山口選手となった。

大会中、優勝争いから脱落してしまった花田選手に「モチベーションの維持をどうすればいいか？」と質問された岡選手は「自分の出来ることをやるしかない、それがアキュラシーだ」と語ったそうですが、全体の結果を見直すと「なるほど、その通りだな」と改めて感じた日本選手権であった。

韓国、モンゴルの選手から日本選手の皆さんへ「今度は私たちの国のカテゴリー2大会へ是非お越しください、待っています」とのこと。アジア各国はレベルが上がっており、筆者も来年は選手として久しぶりに海外の大会へ参加してみたいと思っている。

## [オープンクラス]

1位	岡 芳樹	日本	127
2位	Kim Ki Hyeon	大韓民国	186
3位	古田 岳史	日本	195
4位	Hwang Jaehun	大韓民国	247
5位	和田 浩二	日本	268
6位	川村 真	日本	282

## [スクラッチ総合]

1位	岡 芳樹	東京	127
2位	古田 岳史	埼玉	195
3位	和田 浩二	静岡	268
4位	川村 真	宮城	282
5位	花田 瞬	福岡	350
6位	梅迫 賢一	兵庫	353

## [オープン／スクラッチ女子]

1位	伊藤まり子	愛知	599
2位	橋本みさ紀	大阪	738
3位	山口 香代	東京	1484

## [スクラッチU-26]

1位	花田 瞬	福岡	350
2位	花田 望来	福岡	2775

## [ハンディキャップクラス]

1位	岡 芳樹	東京	3
2位	花田 瞬	福岡	5
3位	古田 岳史	埼玉	6

## [チーム戦]

1位	丹バラA	15
2位	スカイ朝霧	17
3位	ぴよぴよ	22

## 日本選手権者から

## 岡 芳樹

今回も前年に続き、海外選手の参加した日本選手権。世界ランキングで我々より上位にいるキム選手が参加するので、日本選手としては何とか負けないようにしなければと気合を入れて臨んだ。

大会は2日間とも天候に恵まれたが、予想通りのサーマルコンディションとなり、テイクオフの風が時折フォローになったりしたため、マックスの12ラウンド成立とはならず、8ラウンドで終了となってしまった。その中で



ジュニアクラス（26歳以下）の花田望来選手、パッドめざしてテイクオフ。





韓国から4選手、モンゴルから3選手が参加、40選手が着陸の精度を競った。

何とか大きなスコアを出さずにしのいでいたところ、それまでパッドスコアを連発してトップにいた古田選手が2ラウンド大きなスコアを出してしまう。

また最終日にランディングで無理をして失速に入ってしまった選手がいたため、救急車を呼ぶ羽目になり、そのために競技が中止となって、それがなければ10ラウンドは出来たことを思うと大変残念な終わり方となった。しかも、あろうことか、その選手が私であったことも。選手ならびに大会主催者にも多大なるご迷惑をかけてしまったことを思うと、選手権者になったことを素直には喜ぶことはできない。反省至極。

### 伊藤まり子

今年の日本選手権は、仲間達と一緒に何度も練習会をして参加したので、仲間内の誰かが優勝したら嬉しいなあと思っていました。

初日からパッドが遠く、大きく外す事はなくてもパッドが踏めない惜しいフライトが続き、その惜しい感じを何故か楽しめていました。2日目にやっとパッドを踏めたのですが、その後も惜しい感じが続き、迎えた8ラウンド目。弱めの風で無理をして着地で足を捻ってしまいました。DNFを申告し仲間の応援に徹するはずでしたが、結果的には大会が8ラウンドで終了となり、思いがけず女子優勝することが出来ました。長らくスランプに陥ってい



オープンクラス 1位から6位



スクラッチクラス総合 1位から6位



オープン/スクラッチ女子のトップ3



チーム戦の1位から3位

たので、とても嬉しかったです。

スタッフの皆様、いろいろと助けてくれた仲間のみなさん、本当にありがとうございました。

### 【ゼロステッカー】

パッドの中心を踏み、アキュラシー競技の最高得点である0点を獲得した選手のみに与えられるステッカー。JHFウェブサイトのパラグライディング競技委員会>アキュラシージャパンリーグのページに、ステッカー獲得者のリストがある。2023年は、吉原薫、和田浩二、盛龍一郎、河本勇吉、加賀山務、浅田寛之、古田岳史の各選手が獲得。



# リーグ頂点に立ったパイロットから

2023年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして、年間ランキングを決定しています。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した2023年シーズンは、大会の開催数が増え、各地で多くのパイロットが競い合いました。その結果、頂点に立ったトップランカーにとって、2023年はどんなシーズンだったのでしょうか。

## PGジャパンリーグ

[総合]

1位	橋本 耕一	埼玉	3709.5
2位	岩崎 拓夫	京都	3659.1
3位	小林 大晃	三重	3652.3
4位	山下 敦子	兵庫	3565.2
5位	稲見 祐二	愛媛	3506.0
6位	和田 浩二	静岡	3478.9

[総合女子]

1位	山下 敦子	兵庫	3565.2
2位	平木 啓子	静岡	2988.1
3位	中目みどり	東京	2575.5

[スポーツクラス]

1位	杉山 卓也	神奈川	2819.0
2位	長島 信一	石川	2601.6
3位	氏田 敏彦	神奈川	2529.1

[日本代表選抜]

1位	岩崎 拓夫	京都	262.81
2位	小林 大晃	三重	248.75
3位	橋本 耕一	埼玉	230.30
4位	多賀 純一	神奈川	226.90
5位	中村 浩希	愛知	213.30
6位	平木 啓子	静岡	204.61



総合1位  
橋本 耕一

J1リーグに参加して10年目。もっと上手になりたい。いつかは表彰台に立ちたい。と、夢見ながら努力してきました。

少しずつトップグループと飛べるようになり、あともう少し。と、ワクワクしておりました。

そして、ついに表彰台に立てる日がやってきました。

紀の川の日本選手権ではハードなコンディションでしたが、ラッキーにも3位に入り、さらに幸運にも、獅子吼で2位、朝霧で優勝と続き、年間では1位になっていました。

嬉しいというよりも驚きです。トップ集団を後ろから追いかけるフライトスタイルの私にとって、これは出来す

ぎの結果です。フライヤー各位、大会を開催してくださった関係者の皆様に感謝申し上げます。

ゼッケン1は、私には荷が重すぎますが、2024年も表彰台に立てるよう頑張ります。これからも技術向上を目指して、積極的に大会に参加したいです。



女子1位  
山下 敦子

鳥のように飛ぶ先輩方を見上げ、私も上手になりたいと参加したJリーグ。2023年は女子1位、過去10年最高の総合4位という結果となり、大変光栄に思います。まずは大会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

私は、ライバルの格好いい飛びや世界の驚くような飛びを肌で感じて自分を磨けるこの環境が大好きです。今年、コロナ禍明けで久しぶりに参加した草大会で、私と一緒に飛ぶことを楽しんで下さる方にたくさん出会えたことが何より嬉しく、頑張ってきて良かったと感じました。

空を愛する仲間が刺激し合えるJリーグからスカイスポーツを盛り上げられるよう、これからもたくさん飛んで上手になりたいと思います。



スポーツクラス1位  
杉山 卓也

J1に参加するようになって早3年目、まさかスポーツクラスでこんなに良い成績をおさめることができたなんて自分でも信じられません。

というのも去年まではずっとオーブンクラスで参加していて、成績はそこそこだったからです。それが今年は、4年近く乗った前のグライダーから乗り換えた直後の獅子吼で、これまでで最高の成績をおさめることができました。この時のポイントが、最後までランキングの支えとなりました。

なので、一番の勝因は、グライダー



フランスで開催された第18回FAIパラグライディング世界選手権より。撮影：小林大晃選手



を最新の機体に乗りに換えた点だと思えます。やっぱり新品はいいですね。

あとは、J2にも積極的に参加して、コンペの経験を積み重ねることができたのも大きな要因だと思います。J1、J2どちらでも、大会ではいつも刺激を受け、もっと上手に飛びたいというモチベーションになっています。

成績だけでなく、様々なエリアの凄腕フライヤーと交流できることも大会の楽しみなので、2024年もこの調子で活躍できるよう頑張りたいと思います。

## PGジャパン2リーグ

[総合]

1位	齊藤 光秋	千葉県	2731
2位	杉山 卓也	神奈川県	2529
3位	氏田 敏彦	神奈川県	2446
4位	小林 敦之	東京都	2430
5位	坂口 実	京都府	2407
6位	鈴木 彩	神奈川県	2392

[女子]

1位	鈴木 彩	神奈川県	2186
2位	多賀 綾子	神奈川県	2165
3位	坂口 杏	京都府	2163

[チーム]

1位	ポンコツ	15
1位	アサレン	15
3位	丹パラA	11



総合1位  
齊藤 光秋

J2年間チャンピオン、ありがとうございます。

ございます。

2023年からCクラスの2ライナー機の出場が増え、3ライナー機では無理かなと思いつつ、少しでも高く、そして速くを意識して飛びました。結果、尾神、五竜、朝霧と3大会の出場でしたが、どの大会も、安定した成績を取ることができました。

日頃から必ずテーマを決めて飛んでいます。毎回、大会に出るたびにまだまだ課題や反省点がいっぱい見つかります。なかなか思うよういきませんが、これからも安全第一、ハッピーランディングで楽しみます。

最後に、大会主催者及び、運営関係者の皆様、ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。



女子1位  
鈴木 彩

J2に参戦して5年目、初めて2年連続で女子優勝できたことをとても嬉しく思います。総合も6位と私にとっては充分すぎる好成績で、喜びもひとしおです。

2023年は、成立した5タスクのうち4タスクが苦手意識のある尾神で、初戦は目も当てられない成績。大会参加意欲が激減する程にしょげていましたが、8月の尾神の大会で総合3位と調子良く飛ぶことができ、苦手意識を払拭できたのが今期一番の収穫でした。

また、年間チーム優勝できたことも

本当に嬉しく、仲間と一緒に闘うたびにその飛びに刺激を受け、切磋琢磨できた気がします。2023年も素晴らしい経験ができ、大会の主催者や関係者の皆様に御礼を申し上げるとともに、2024年も多くのJ2大会が開催されることを心より願っております。

## PGアキュラシージャパンリーグ

[スクラッチクラス総合]

1位	岡 芳樹	東京都	166.4
2位	河本 勇吉	大阪府	150.0
3位	和田 浩二	静岡県	144.1
4位	日野 政浩	宮城県	134.1
5位	梅迫 賢一	兵庫県	114.9
6位	川村 真	宮城県	104.6

[スクラッチクラス女子]

1位	伊藤まり子	愛知県	104.3
2位	橋本みさ紀	大阪府	81.4
3位	高橋 美佳	埼玉県	74.4

[ハンディキャップクラス総合]

1位	岡 芳樹	東京都	166.4
2位	河本 勇吉	大阪府	150.0
3位	日野 政浩	宮城県	137.2
4位	梅迫 賢一	兵庫県	126.2
5位	和田 浩二	静岡県	125.3
6位	花田 瞬	福岡県	112.0

[ハンディキャップクラス女子]

1位	伊藤まり子	愛知県	86.7
2位	高橋 美佳	埼玉県	80.4
3位	橋本みさ紀	大阪府	61.8

[チーム]

1位	丹パラA	30
2位	スカイ朝霧	20
2位	ぴよぴよ	20

## ● 2023年パラグライダーJ, J2, AJリーグを振り返って パラグライダー競技委員長 岡 芳樹 ●

[J1リーグ]

2023年は8大会が開催され1大会が不成立となった。4年ぶりに戻ってきた吉野川の大会は3日間のスケジュールで、日本選手権以外では珍しいカテゴリ2公認を取り、気合が入ったが、何とか成立本数は3本と、ポイントは満額となったがデイクオリティが0.6以上のタスクが1本と、少々残念な結果となった。

それでもリーグ登録選手数は昨年より増えており、セレクションとなる大会も多いので、活況を呈している。願わくは、2年に1回くらいは定番のエリアでない所で開催して、新たな可能性を追求できればと思う。

[J2リーグ]

5大会が開催され昨年度より1大会増えたが生憎2大会が不成立となり、成立した大会は3大会どまりとなった。それでも2022年度の2大会成立よりはましで、かつ各大会の参加選手数も、リーグ登録選手数も増えているので、J2リーグもようやく軌道に乗りつつあるのではと期待される。このトレンドを促進するためにも、新たな大会開催エリアを発掘して大会数を増やしていくことが課題である。新規開催エリアに対してはJHFからもサポートする体制があるので、是非活用してほしい。

[アキュラシーJリーグ]

日本選手権を含めて5大会開催。そ

うちの一つが天候不順で中止となつてしまい、成立4大会となり、残念なシーズンとなった。それでも、成立した大会では、成立ラウンド数が4以上となって、獲得ポイントが100%計上できたのが救いであった。

また、今年初めてアキュラシーリーグ大会に参戦する選手（いわゆるルーキー）が14人と今までにない多数が参加してくれたこと、ならびに今年から取り入れたジュニア（26歳以下）クラスの選手も6人となり、若いパイロットが参加してくれたことは大変喜ばしい。この調子で2024年も若い選手の参加を期待したい。

## 〔日本代表選抜〕

1位	和田 浩二	静岡	236.85
2位	岡 芳樹	東京	224.60
3位	河本 勇吉	大阪	215.50
4位	古田 岳史	東京	196.85
5位	日野 政浩	宮城	175.65
6位	平野 竜二	兵庫	162.95



**スクラッチクラス  
総合1位  
岡 芳樹**

2023年はリーグ戦の数が日本選手権を含めて5大会しかなく、その内の1大会が天候の関係でキャンセルとなっ  
てしまい、都合4大会しかなく、取りこぼしが許されない年であった。その中で何とか、1位が1回、2位が1回、3位が1回とポイントランキングに計上できる3大会でそれなりのポイント  
を稼ぐことができ、またライバル選手も2大会でトップになることはなく、それなりに失敗をしてくれた(?)ために年間トップになれたわけで、喜びもそれなりである。

また、年度途中でグライダーを変えたこともあって、しっかりと特性を理解して頭で考えずに体が反応するまでのコントロールが出来ていないため、大会でのランク自体は良くても、スコアが今一つであるので、2024年はさらに練習を積んでいきたい。



**スクラッチクラス  
女子1位  
伊藤 まり子**

この数年間は、アキュラシー界でのできごとの影響を強く受けてメンタル的に低迷していましたが、心理学や集合意識を学び、自分で出来ることは全てやり、その結果は全て受け入れること、いろんな場面で助けてくれる仲間

達を信じて甘えること、「好き」を思い出すことで少しずつ自分らしさを取り戻してきました。

2023年は、シーズンを通してパッドスコアが少なく、風の運だけで上位に滑り込むケースが多くて実力的にはまだまだですが、仲間と一緒に楽しく練習して、お互いが良きライバルとなり、共に刺激しあいながらレベルアップしていけるような明るい未来を想像しながら、若者が増えてきたアキュラシー界を、これからもみんなと一緒に盛り上げていきたいと思っています。

この結果は、低迷期にもずっと寄り添ってくれた仲間たちのおかげです。ありがとうございました。

## HGシリーズ

### 〔クラス1 総合〕

1位	田中 元気	大阪	3797
2位	鈴木 博司	岐阜	3696
3位	大門 浩二	茨城	3479
4位	鈴木 由路	茨城	3446
5位	名草 慧	大阪	3429
6位	大陽 智仁	茨城	3411

### 〔クラス1 女子〕

1位	野尻 知里	茨城	1790
2位	櫻井さやか	栃木	1728
3位	内田 秀子	茨城	1643

### 〔クラス1 世界選手権選抜〕

1位	田中 元気	大阪	3634.5
2位	大門 浩二	茨城	3572.5
3位	鈴木 博司	岐阜	3440.5
4位	砂間 隆司	愛知	3438.5
5位	小椋 溪太	神奈川	3414.5
6位	大陽 智仁	茨城	3379.0

### 〔クラス5 総合〕

1位	板垣 直樹	茨城	174.0
2位	岩崎 正芳	群馬	108.1
3位	古坂 学俊	茨城	106.8
4位	櫻井 大朗	栃木	97.7
5位	岡田 伸弘	静岡	82.2
6位	山口 裕之	東京	77.8



北マケドニアでのFAIハンググライディング世界選手権



ハンググライディング女子世界選手権で野尻選手は3位



日本チームはクラス5 世界選手権の銅メダル



**クラス1  
総合1位  
田中 元気**

2023年のランキング1位になったこと、本当に嬉しく思います。板敷山で開催された日本選手権で優勝することが出来て、日本選手権とランキング1位をどちらも取れて本当に嬉しいです。

板敷山での大会で優勝したのは初めてで、伝統の優勝旗を掲げることができたことも本当に嬉しい出来事でした。

2023年はFledgeという競技者育成プログラムで、Trainingcampという競技者への講師をやらせていただきました。いろいろな意見や感想を交わすことで、皆でスキルアップすることが楽しく、今後は知識、経験を皆に伝えて

## ● 2023年ハンググライディングシリーズを振り返って

ハンググライディング競技委員長 牟田園 明

2023年のハンググライディングクラス1 競技は8大会で計15タスクを消化することができ、過去10年で最も大会数の多い年になった。

2022年から立ち上げた「競技者育成プログラム (Fledge)」で2つの大会(七曲、南陽)を企画・運営できたことが大会数増加に寄与している。この

プログラムでは、競技者のレベルに応じて様々な取り組みを企画・運営している(初級者:スポーツクラス大会、中級者:フライトセミナー、上級者:新規エリアでのポイント大会、など)。

2024年には、海外から有力選手を日本に招致して一緒に競技フライトをする企画を進めている。

競技の面白さを知るキッカケとして、全国のハングフライヤーの皆さんに競技者育成プログラムを有効活用していただきたい。

活動の詳細については競技委員会のHPをご覧ください。

<https://jhf.hangpara.or.jp/hgc/fledge/>



いくことにも力を入れていたらなとも思っています。

これからも楽しく飛んで楽しく競っていきましょう！



クラス1  
女子1位  
野尻 知里

2023年はあまりゴールできず、ここに名を連ねていることに正直驚いています。いろんな大会に参加して、そこそこの点数が取れた日もあったから、それが結果に結びついたのかも。

板敷での雲底を進んだ長い長いファイナルグライド。初の七曲での大会、まさかの入賞。そして龍門での懐かしい仲間との再会。各地で大会を開催してくれる皆様に心から感謝です。絶妙なタスクを組むコミッティーの方々に

も感謝を。

北マケドニアの世界選手権にも出場できて、大会のある生活を謳歌した一年でした。知らないエリアも、みんなと一緒に飛べば怖くない。言葉が通じなくても、同じルールで真剣に遊べるのが本当に楽しい。もっとたくさんの人にこの楽しさを味わってほしいです！



クラス5  
総合1位  
板垣 直樹

2023年の年間ランキングは世界選手権でのポイントに尽きるので大きな事とは言えません。

国内の大会は、日本選手権・優勝、南陽スカイフェスティバル・優勝、EJC・6位とムラがあった。世界選手権優勝を目指していたが結果は6位、

惨敗となってしまった。

そもそも自分の得意なのは、上げの速さでレースを先行してトップを狙う飛び。当然ながらハイリスク・ハイリターンでリスクは大きい。

タスク距離の短い国内なら上手いことが多く、なんとかするが、世界選手権の平均130km程のタスクとなると、スタートからトップでそのまま逃げ切る事は難しい。

今まで自分の好きな飛び方、強い所だけを更に上達するような飛び方だけをしてきた為、自分が不利な状況での我慢や粘りの飛び、辛抱強く状況を見極める力が不足している。

人によっては競技引退も考える年だが、もう一度自分の弱点を見直し、安定した飛びが出来るように考え実行し更に上達し、違う景色を見たい。

## JHFからのお知らせ

### ■2024年JHFカレンダーを頒布

第10回フォトコンテストの入選作品と、応募作品から選んだ季節感のある写真で、2024年のJHFカレンダーを作りました。仕上がりサイズはA4。これを上下に開き各月A3サイズの縦型吊り下げタイプです。

まだ少し在庫があります。ご希望の方はJHF登録スクールでご購入いただくか、JHF事務局にお申し込みください。頒布価格は1冊500円（送料込）です。詳細はJHFウェブサイトのトピックス（2023年11月6日）をご覧ください。



### ■JHF会費のd払いができます

JHF会費のウォレット請求書払いで利用可能な決済アプリ（LINEPay、auPAY、PayB）に追加して、2023年7月からd払いが可能になりました。

ウォレット請求書払いとは、払込票に記載されたバーコードを、ウォレッ

トサービスのスマートフォンアプリで読み取ることでお支払いを可能にするものです。

会員登録更新案内の払込票に記載されたバーコードを読み取って決済してください。決済が完了しましたら、事務局でデータ確認ができ次第、ご登録の住所宛に会員証をお送りします。

決済から1週間が過ぎてもお手元に会員証が届かない場合は、お手数をおかけしますが、JHF事務局までお問い合わせください。

### ■1年会費のみになりました

2023年6月13日のJHF定時総会において、JHF会員会費規約の改正が承認されました（47正会員の全員一致の賛成による）。

これまでJHFフライヤー会員会費は1年会費または3年会費でしたが、2024年1月1日より1年会費のみになりました。これによって、事務局業務の効率化も図っていきます。

### ■JHFインスタ：ショート映像募集

JHF公式Instagramを始めました。広報活動のひとつとして、パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような、気持ちよさそう！飛んでみたい！というショート映像を紹介していきます。

つきましては、会員の皆さまにも、

楽しさが伝わる映像のご提供をお願いします。

ハンググライダーまたはパラグライダーでのテイクオフ、フライト、旋回、ランディング等をしている15秒～60秒程度の動画をお願いします。あなたやお仲間の動画をぜひ！ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。



### ■エリア情報を集めています

ドローン実用化に伴いハンググライダー、パラグライダーのエリアの正確な把握が必須になっています。

エリア管理を担当されている皆様、エリア名、テイクオフ、ランディング所在地、GPSコード情報をお知らせください。現在把握している情報はJHFウェブサイトに掲載しています（左下のQRコード）。ウェブフォームからの入力もできますので右下のQRコードからご覧ください。



会員の皆様からの、ご存知のエリアが掲載されていない等の情報もお待ちしております。ご協力をお願いします。

## JHFからのお願い

### ■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局にお知らせください。

[お知らせいただきたいこと]

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしフライトのお仲間に転居された方や、お名前が変わった方がいたら「JHFに変更の連絡をした？」と声を

かけていただけると、たいへん助かります。

### ■各種申し込みやお知らせ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがありますが、順次対応をいたしますのでご理解ください。

\*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

### ■紙ではなくPCやスマホで JHFレポートを読みたい方に

JHFレポートは、毎号、紙に印刷したものをフライヤー会員の皆さま全員にお送りしていますが、紙ではなく、PCやスマホで読みたいという方が最近増えているようです。

JHFレポートはJHFウェブサイトでもご覧いただけます。印刷版が不要の方は、お手数ですが、JHF事務局までメールでご連絡くださるようお願いいたします。

#### JHFレポート244号

発行日：2024年（令和6年）1月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト

本レポートの一部あるいは全部を無断で複写複製することはご遠慮ください。

## すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。



くじを買うはエールになる



※19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

## 上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2024年（令和6年）11月30日にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにはバナーを掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。